

2021年度上期 決算説明資料

2021年7月6日
キューピー株式会社

アジェンダ

1. 2021年度上期 概要
2. 2021年度計画と主原料相場への対応
3. 参考資料

■本資料の記載について

- 本資料における記載金額は、億円表示の場合は億円未満を四捨五入しています。また、比率は小数点第一位を四捨五入しています。
- 2021年度より、報告セグメントの区分を変更しています。
国内の「調理・調味料」「サラダ・惣菜」「タマゴ」は「市販用」「業務用」へ再編
「調理・調味料」に含まれていた海外部分を分離し、「海外」を新設
「物流」は持分法適用関連会社へ移行
- 海外の決算期は10月～9月が対象となります。

1. 2021年度上期 概要

2021年度上期 概要

【業績概要（物流事業含む）】

◆売上高 減収（△642億円）

◆営業利益 増益（+ 33億円）

(株)キューソー流通システムの持分法適用関連会社移行による影響(売上高△698億円、営業利益△11億円)

【業績概要（物流事業遡及後）】

◆売上高 増収（+ 57億円）

- ・ 内食需要の高まりにより市販用が増収 (+37億円)
- ・ 海外復調による増収 (+16億円)

◆営業利益 増益（+ 44億円）

- ・ 売上総利益の増加 (+41億円)
- ・ 販売費および一般管理費の抑制効果 (+ 4億円)

◆親会社株主に帰属する
四半期純利益 増益（+ 40億円）

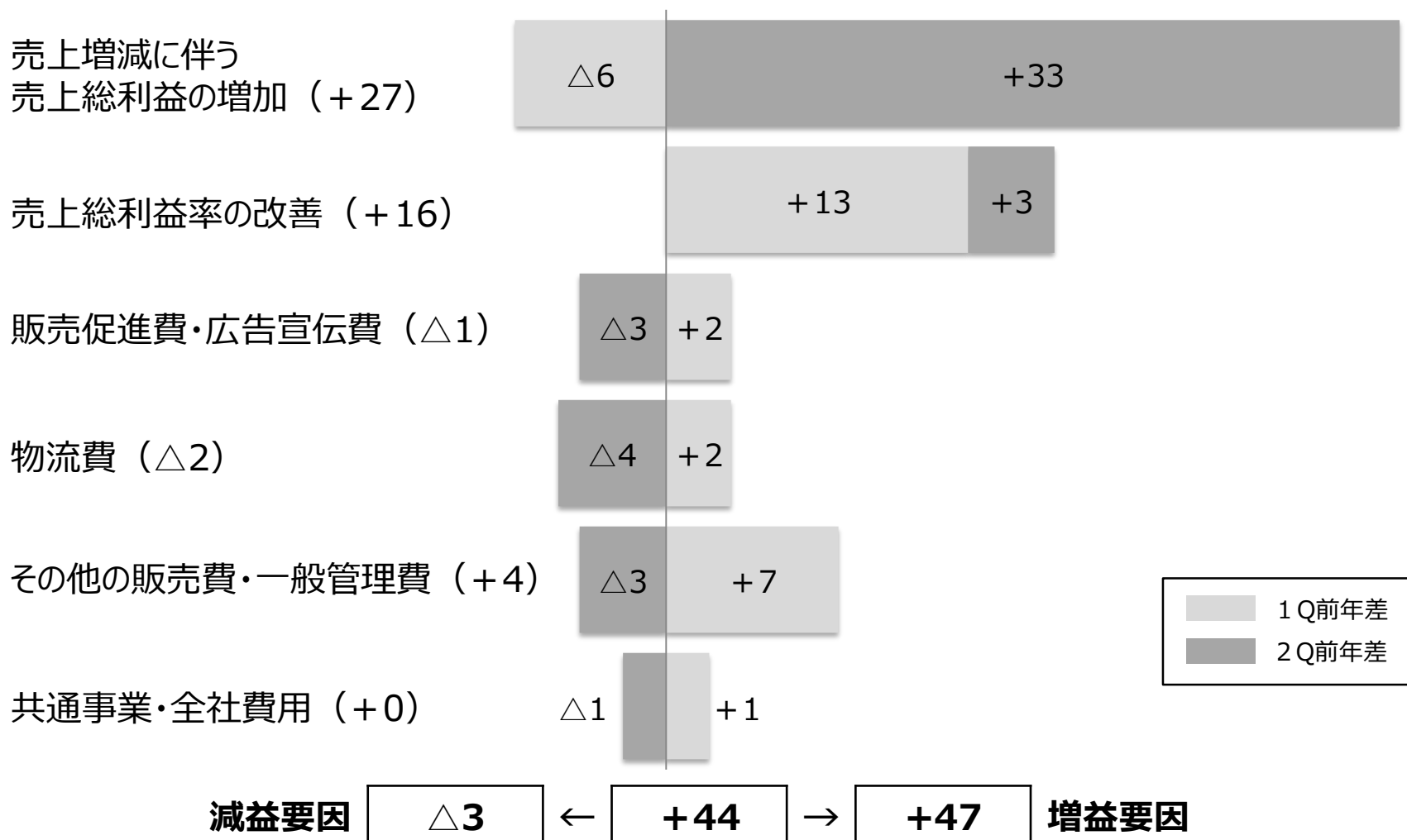
- ・ 資産および有価証券売却益 (+ 7億円)
- ・ 特別損失の減少影響 (+ 5億円)

(億円)	2020年度 上期	2020年度 上期(遡及後)	2021年度 上期	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)
売上高	2,631	1,932	1,989	+57	+3%
営業利益	112	101	145	+44	+44%
経常利益	114	106	152	+46	+43%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	56	56	96	+40	+70%
営業利益率	4.3%	5.2%	7.3%	+2.1%	—

※ 2020年度上期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

2021年度上期 営業利益の増減要因(前年差+44)

(億円)	2021年度 上期	前年差 (遡及後)	前年差 (物流事業含む)
営業利益	145	+44	+33



2021年度上期 セグメント別売上高・事業利益

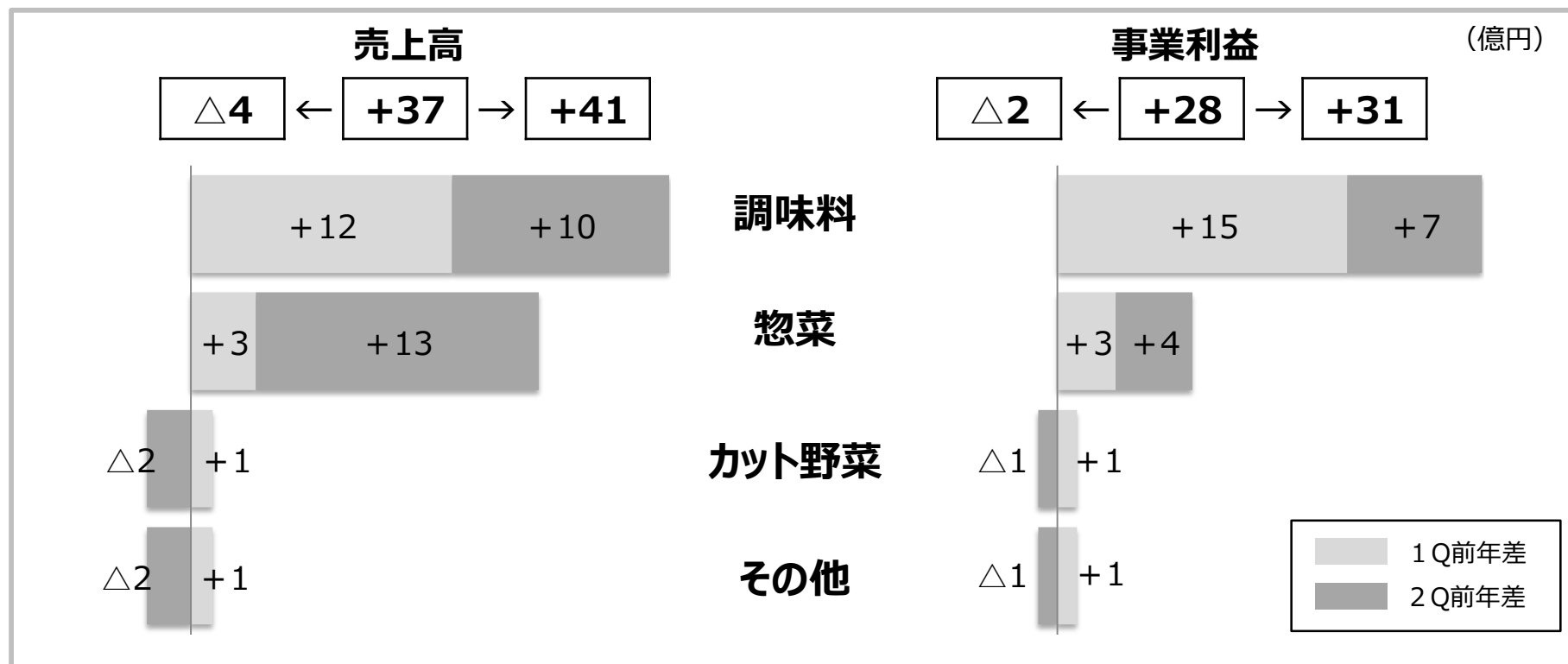
(億円)	売上高					
	2020年度 上期(遡及後)	2021年度 上期	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)	1Q前年差 (遡及後)	2Q前年差 (遡及後)
市販用	823	860	+37	+5%	+17	+19
業務用	717	724	+7	+1%	△51	+58
海外	231	247	+16	+7%	+1	+15
フルーツソリューション	83	86	+3	+3%	+2	+1
ファインケミカル	40	44	+4	+10%	+2	+2
共通	37	27	△10	△27%	△11	+1
合計	1,932	1,989	+57	+3%	△39	+96

(億円)	事業利益					
	2020年度 上期(遡及後)	2021年度 上期	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)	1Q前年差 (遡及後)	2Q前年差 (遡及後)
市販用	69	97	+28	+41%	+20	+9
業務用	27	27	△0	△1%	△9	+8
海外	19	37	+18	+92%	+8	+10
フルーツソリューション	2	4	+2	+64%	+1	+1
ファインケミカル	4	1	△3	△78%	△2	△1
共通	7	6	△1	△12%	△0	△0
全社費用	△28	△27	+1	-	+1	△0
合計	101	145	+44	+44%	+19	+25

※ 2020年度上期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

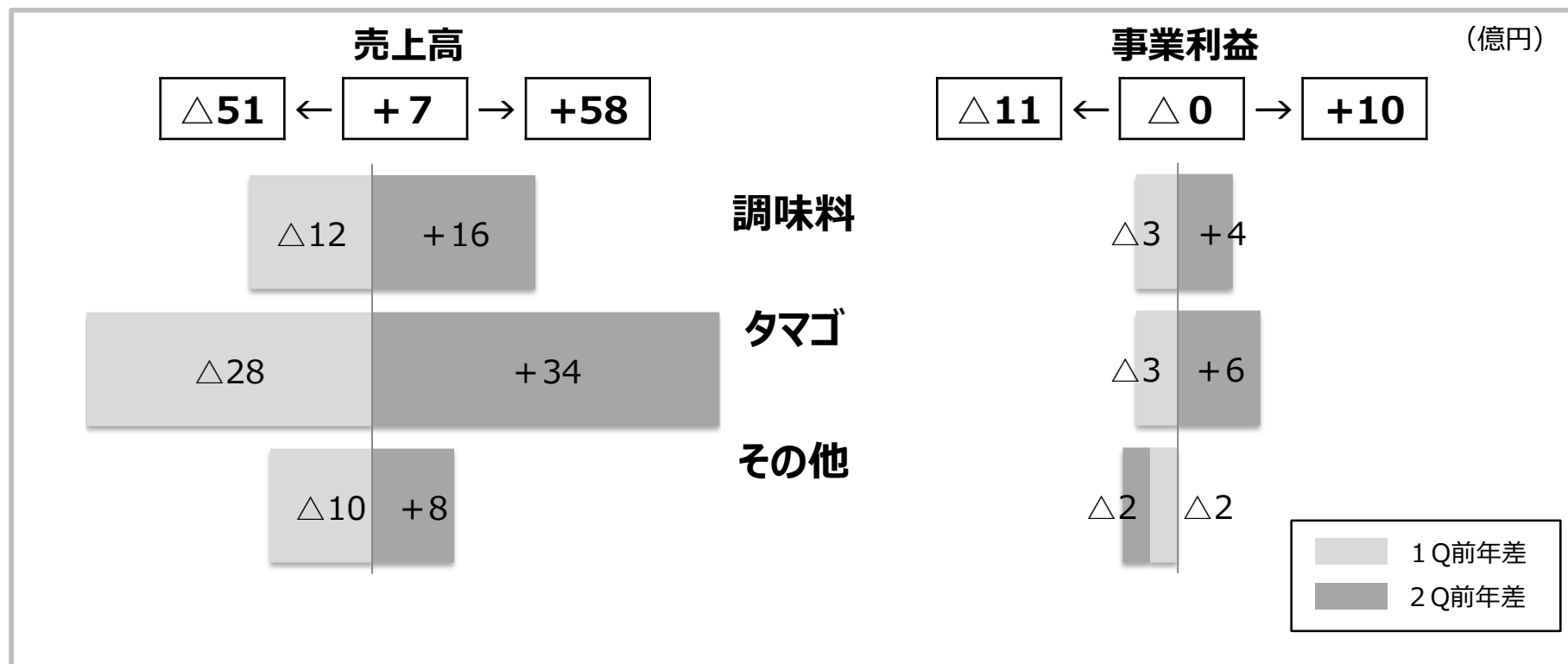
※ 海外の前年差には、為替影響(売上高△1億円、営業利益+0億円)が含まれています。

2021年度上期 市販用の業績増減(前年差)



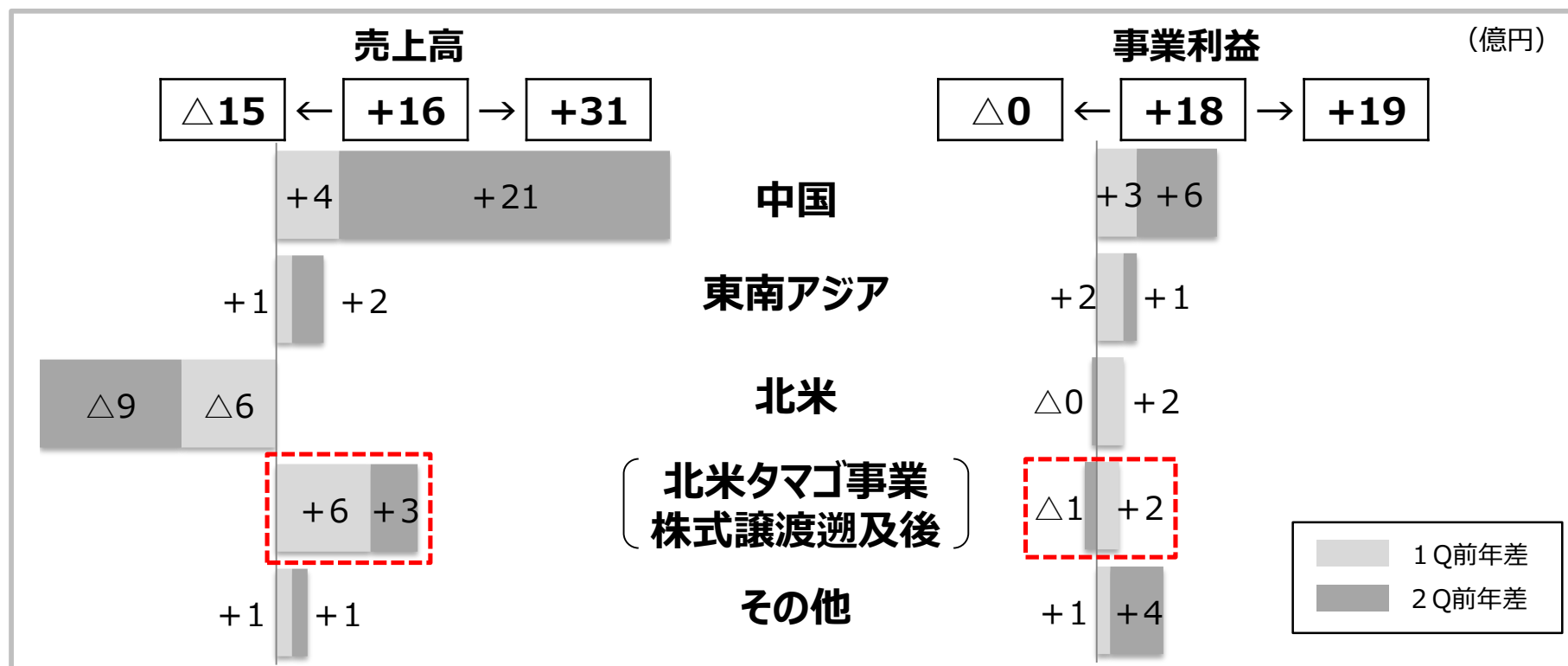
(億円)	売上高		事業利益		主な要因
	2021年度上期	増減率	2021年度上期	増減率	
市販用	860	+4%	97	+41%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内食需要の増加を捉え増収 ・ 売上増加影響により増益
調味料	354	+7%	69	+44%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主力のマヨネーズやドレッシングが伸長し増収増益
惣菜	295	+5%	17	+78%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主力のポテトサラダや宅配向け商品が堅調に推移し増収 ・ 売上増加影響や生産性の向上により増益
カット野菜	132	△1%	8	△1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉物野菜の相場下落影響により減収減益

2021年度上期 業務用の業績増減(前年差)



(億円)	売上高		事業利益		主な要因
	2021年度上期	増減率	2021年度上期	増減率	
業務用	724	+1%	27	△1%	<ul style="list-style-type: none"> 鶏卵相場上昇の影響により増収 生産再編に伴う操業度低下の影響により減益
調味料	203	+2%	15	+5%	<ul style="list-style-type: none"> 売上の回復により増収増益
タマゴ	433	+1%	15	+26%	<ul style="list-style-type: none"> 鶏卵相場上昇の影響により増収 販管費削減の効果により増益

2021年度上期 海外の業績増減(前年差)



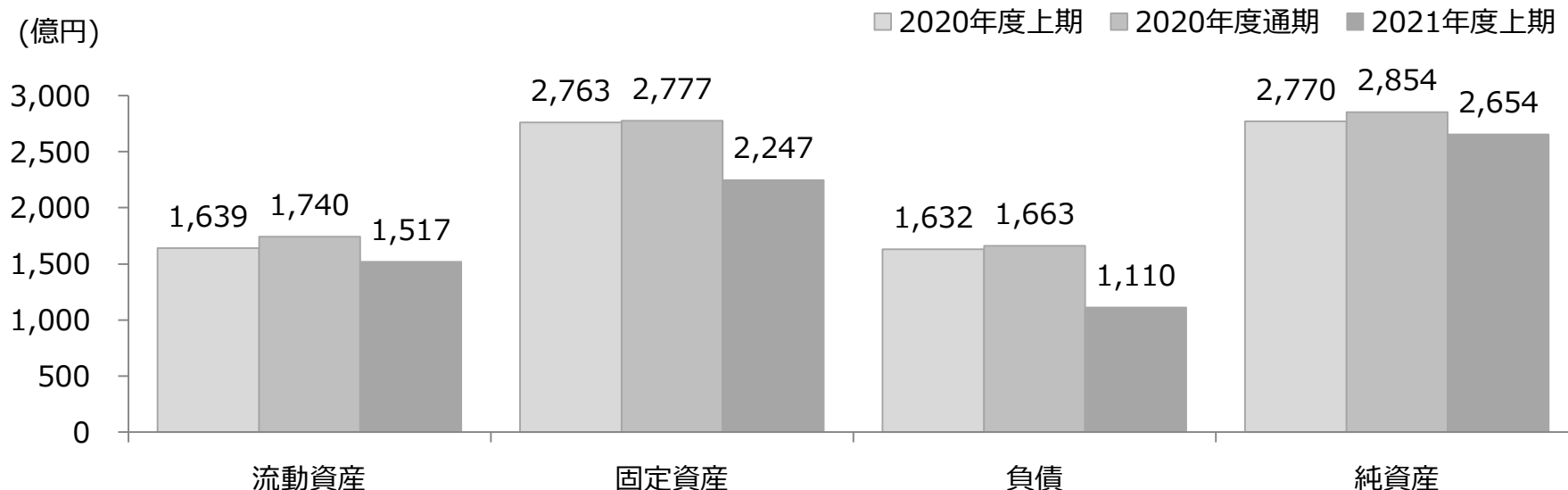
(億円)	売上高		事業利益		主な要因
	2021年度上期	増減率	2021年度上期	増減率	
海外	247	+7%	37	+92%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症からの回復により増収 海外拠点の売上や輸出の増加により増益
中国	107	+31%	18	+87%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症からの回復により増収 付加価値品の伸長により増益
東南アジア	65	+5%	9	+46%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響から外食需要が減少したものの、家庭内需要の増加により増収増益
北米	49	△23%	4	+40%	<ul style="list-style-type: none"> 北米タマゴ事業譲渡影響により減収 家庭用商品の伸長により増益

2021年度上期 営業外損益・特別損益の概要

(億円)	2020年度 上期(遡及後)	2021年度 上期	前年差 (遡及後)	主な要因
営業利益	101	145	+44	
営業外損益	5	7	+2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支払手数料の減少 +1 ・ 持分法による投資利益の増加 +1
経常利益	106	152	+46	
特別損益	△9	4	+13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定資産売却益の増加 +4 ・ 関係会社株式売却益の増加 +3 ・ 固定資産除却損の減少 +1
税引前利益	97	155	+59	
法人税等 非支配株主に帰属 する四半期純利益	40	59	+19	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	56	96	+40	

※ 2020年度上期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

2021年度上期 バランスシートの増減ポイント



〈2020年度通期との比較〉

流動資産 △224億円

- ・ 売掛債権の減少 △157
- ・ 現預金の減少 △46

固定資産 △530億円

- ・ 有形・無形固定資産の減少 △632
- ・ 投資有価証券の増加 +163

負債 △553億円

- ・ 長期借入金の減少 △346
- ・ 仕入債務の減少 △125

純資産 △200億円

- ・ 自己株式の取得 △70
- ・ 非支配株主持分の減少 △222

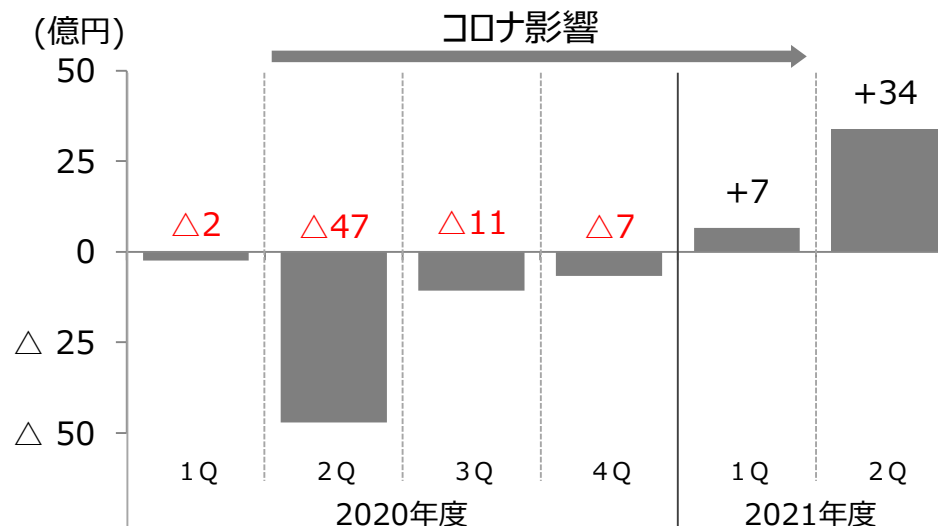
※ 2021年度より物流事業が持分法適用関連会社へ移行したことにより、総資産1,027億円、負債617億円減少しています。

2. 2021年度計画と主原料相場への対応

2021年度上期の成果（売上総利益と販管費）

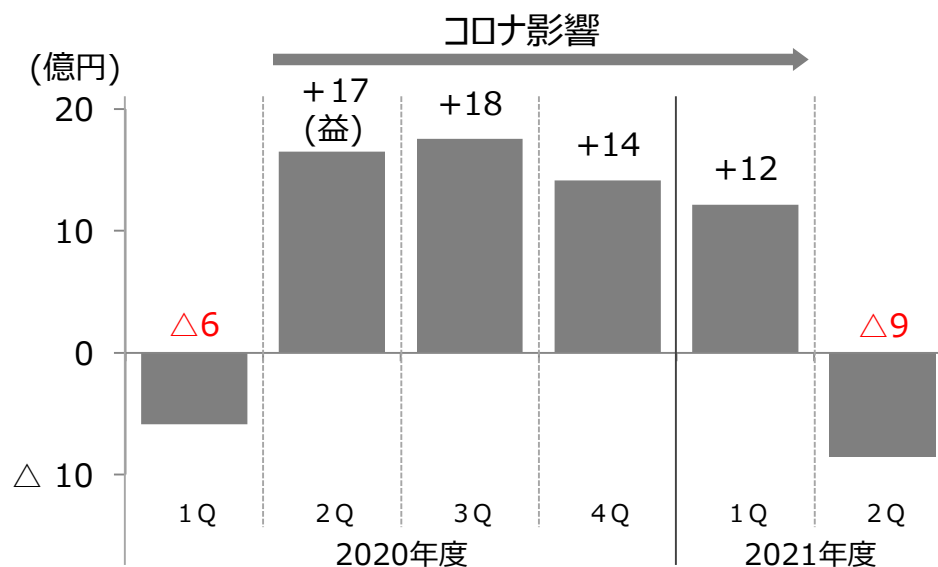
◆売上総利益増減の推移

2020年度第2四半期以降で売上影響による総利益の減少となったが、2021年度は市販用・海外の伸長によりプラスに転じた
2021年度第2四半期はコロナ一巡から大幅増益要因となった



◆販管費抑制増減の推移

販管費の抑制についてはコストコントロールの強化により、しっかりと成果を出せた
2021年度第2四半期は△9億円の減益要因となっているが、コロナ一巡後の活動経費の増加分に留まっている

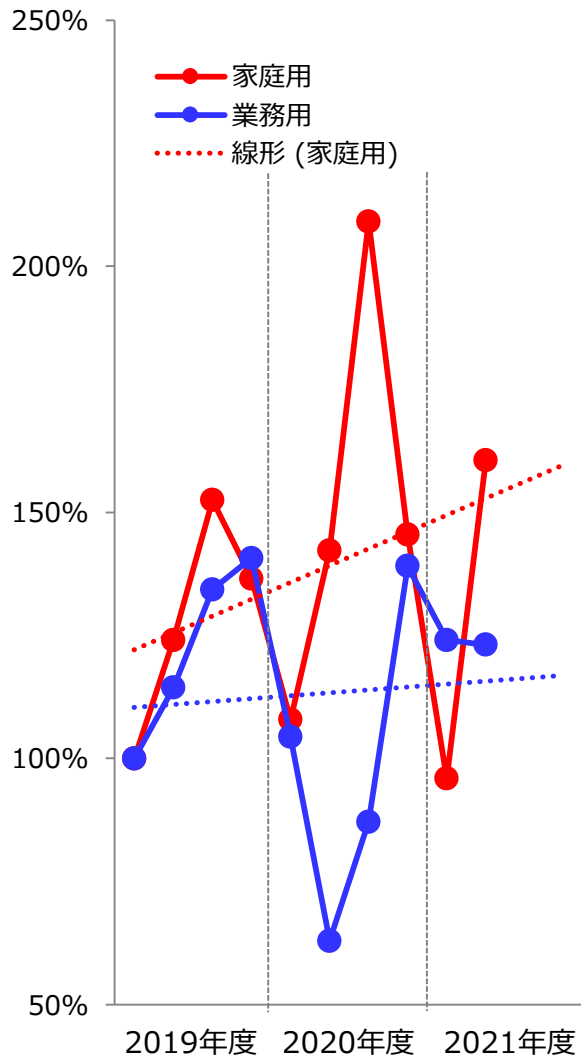


※物流事業遡及後

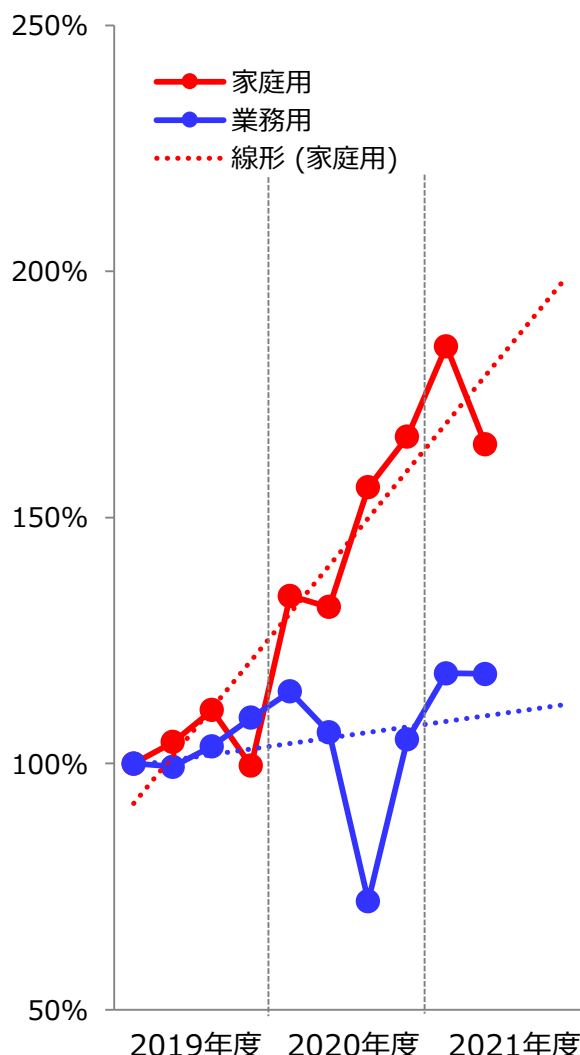
海外の状況

2019年第1四半期の売上高を100とした時の推移

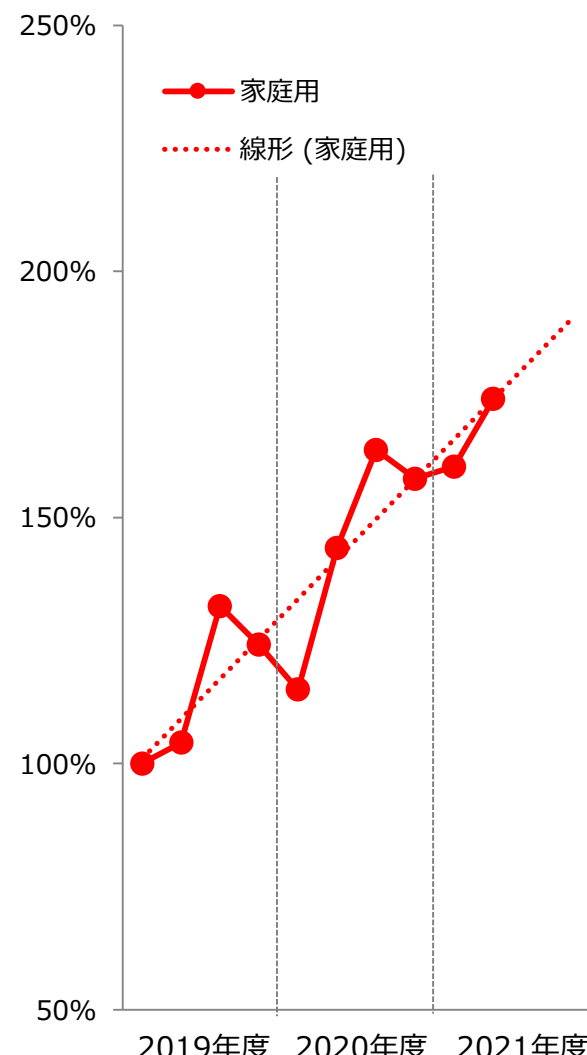
中国業態別マヨ・ドレ推移



東南アジア業態別マヨ・ドレ推移



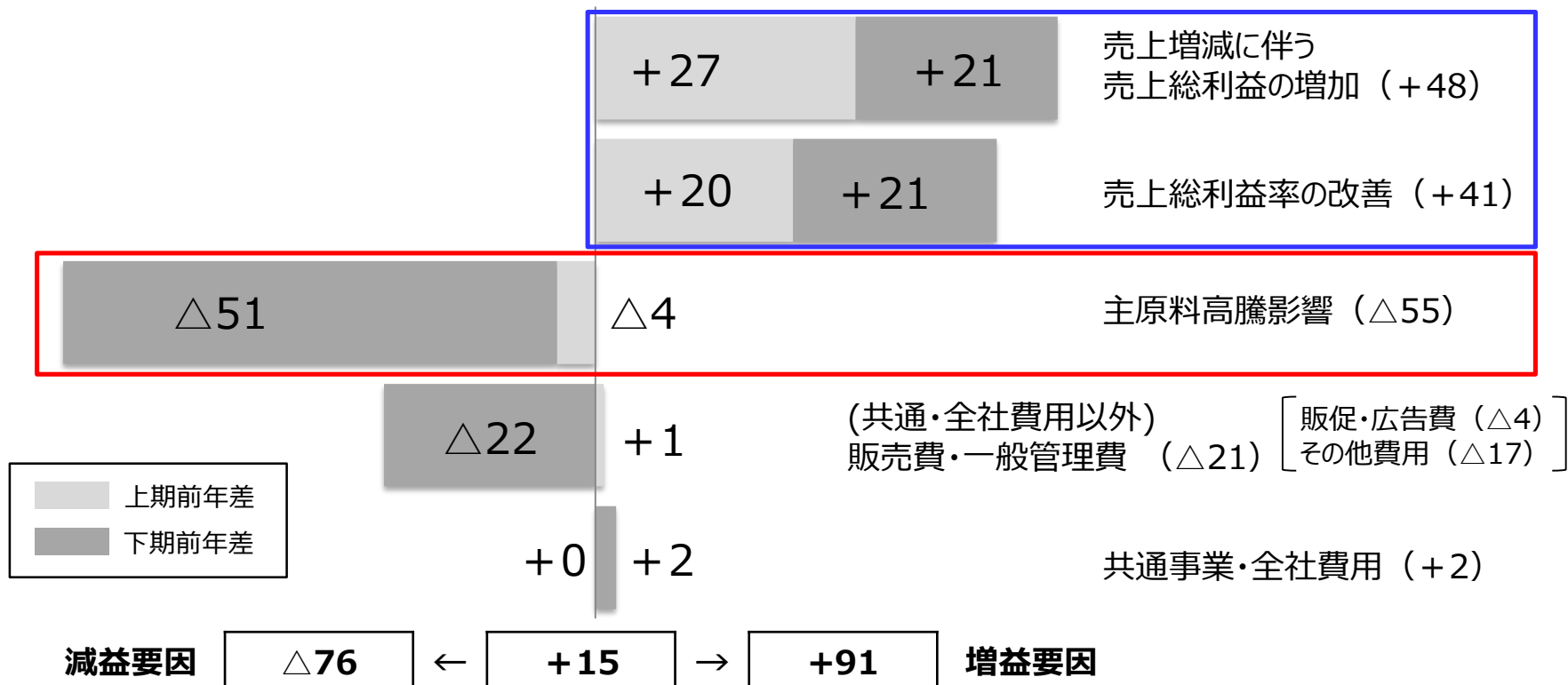
北米業態別マヨ・ドレ推移



海外でも家庭用は内食需要の高まりを捉え、業務用はコロナ影響から回復傾向

2021年度通期 営業利益の増減要因(前年差 + 15)

(億円)	2021年度 通期計画	前年差 (遡及後)	上期前年差 (遡及後)	下期前年差 (遡及後)
営業利益	270	+ 15	+44	△29



売上総利益の増加

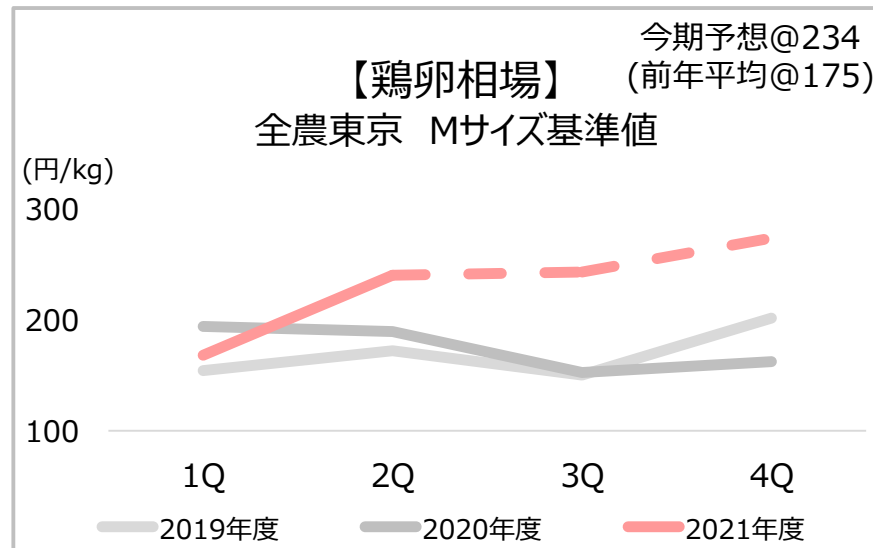
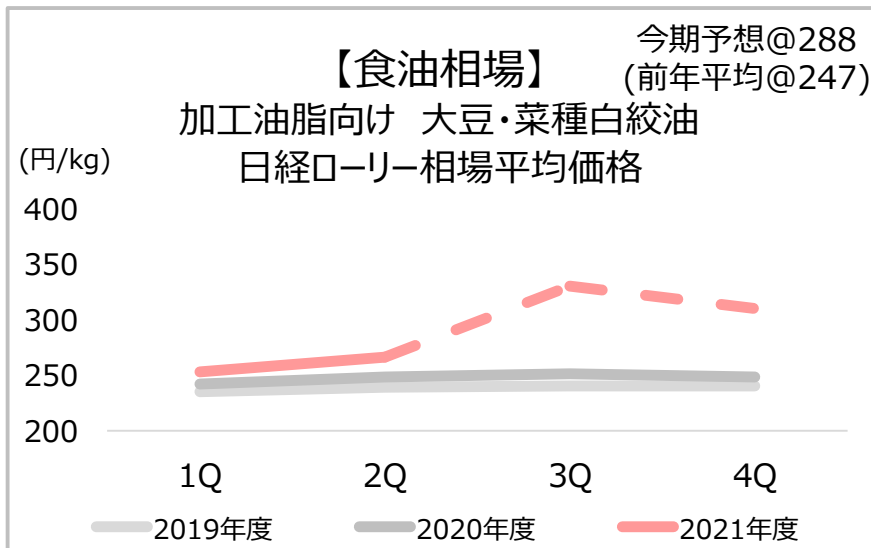
- ・ 業務用の回復と生産性向上の取り組み
- ・ 海外オーガニック成長
- ・ 付加価値品の拡大

- ・ コロナ禍からの需要の戻りと主力商品の効率化
- ・ 中長期の成長に向けた新たな取り組み
- ・ 健康訴求品・タマゴ加工品・PPピローの増加

主原料の高騰影響

原料相場の想定

食油： 中国の旺盛な買い付けと米国におけるバイオディーゼル需要の高まりにより高値圏で推移
 鶏卵： 鳥インフルエンザからの回復は段階的であり、需給バランスは2022年秋まで逼迫



	主原料 (調味料)	鶏卵
相場影響額	△32億円	△23億円
	2021年度 △55億円	
	市販用	業務用
	△11億円	△28億円
		海外
		△16億円

(△ = 損)

主原料高騰への対応

◆機動的な価格適正化

- ・ 調味料の価格改定の機動的な実施
⇒7月1日からの新価格を常態化
- ・ 販売条件の見直し
⇒販売促進費の是正
- ・ 国際的な原料高への対応
⇒海外各拠点における価格改定の実施

市販用

業務用

調味料

海外



日本



中国



タイ



北米

原料相場に強い体質への転換

◆ポートフォリオの最適化による相場耐性力の強化

- ・ タマゴ商品領域の付加価値化モデルへの転換
- ・ 相場に左右されにくい調味料商品領域の再構築

◆中長期対策の検討

- ・ グループ連携による調達体制の構築

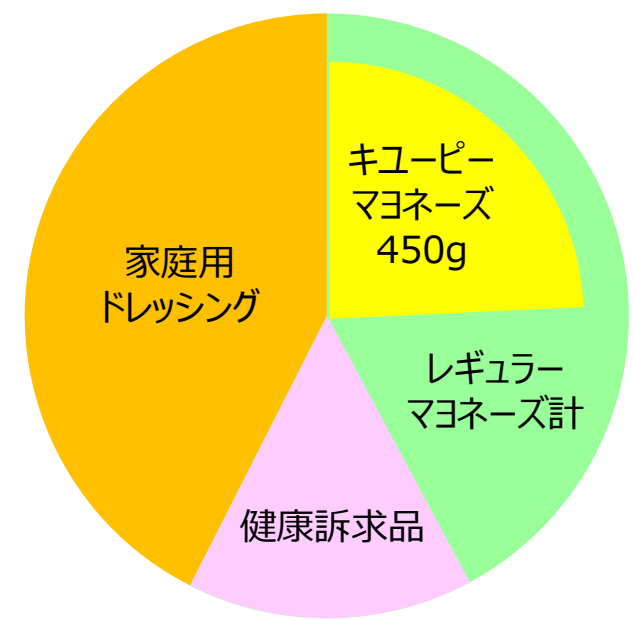
グローバル化も含めたグループ最適調達

原料相場に強い体質への転換

付加価値化へのシフトと利益創出力の向上

高騰リスク分散	成長市場対応
<p>原料高騰リスクを平準化する 主力商品の強化</p>  <p>深煎りごまドレッシング キューピー-half</p>	<p>持続的成長に向けた 新規カテゴリーの育成</p>  <p>Fresh Stock フレッシュストック</p> <p>HOBOTAMA</p>
<p>機動的な価格適正化と 値頃感の維持</p>  <p>450g 350g</p>	<p>多様化する健康ニーズへ 高付加価値品の拡充と浸透</p>  <p>フィット ディフェ アマニ油</p>
マヨネーズの新たな価値感	付加価値化シフト

家庭用サラダ調味料構成比
(現状イメージ)



構成比の再構築

2021年度通期計画

(億円)	売上高						
	2020年度 通期(遡及後)	2021年度 前回公表計画	2021年度 通期計画	前回 公表差	前年差 (遡及後)	上期前年差 (遡及後)	下期前年差 (遡及後)
市販用	1,680	1,700	1,722	+22	+42	+37	+5
業務用	1,450	1,510	1,547	+37	+97	+7	+89
海外	472	500	520	+20	+48	+16	+32
フルーツ ソリューション	165	173	170	△3	+5	+3	+2
ファインケミカル	79	84	84	+0	+5	+4	+1
共通	60	33	57	+24	△3	△10	+7
合 計	3,907	4,000	4,100	+100	+193	+57	+137

(億円)	事業利益						
	2020年度 通期(遡及後)	2021年度 前回公表計画	2021年度 通期計画	前回 公表差	前年差 (遡及後)	上期前年差 (遡及後)	下期前年差 (遡及後)
市販用	158	146	172	+26	+14	+28	△14
業務用	78	97	63	△34	△15	△0	△15
海外	49	54	64	+10	+15	+18	△3
フルーツ ソリューション	6	8	8	+0	+2	+2	+1
ファインケミカル	12	11	9	△2	△3	△3	+0
共通	13	10	12	+2	△1	△1	△0
全社費用	△61	△62	△58	+4	+3	+1	+3
合 計	255	264	270	+6	+15	+44	△29

※ 2020年度通期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

中期経営計画の進捗

利益体質の強化と新たな食生活創造

海外を成長ドライバーとし、国内は市場担当制の導入でお客様のニーズに対応する

重点領域

サラダ（調味料を含む）とタマゴ

海外エリア

中国、東南アジアを中核に
北米を強化する

重点指標

ROE 8%以上
営業利益率 7.5%
海外売上高伸長率 年率10%以上

	2020年度 通期(遡及後)	2021年度 上期実績	2021年度 通期計画	2024年度 目標
ROE	4.8%	—	6.4%	8%以上
営業利益率	6.5%	7.3%	6.6%	7.5%
海外売上高伸長率	+4%	+20%	+17%	年率10%以上
売上高	3,907億円	1,989億円	4,100億円	4,100~4,400億円
営業利益	255億円	145億円	270億円	310~330億円

※ 2020年度通期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

※ 海外売上伸長率は2020年7月に株式譲渡した北米タマゴ事業の業績を除いて算出しています。

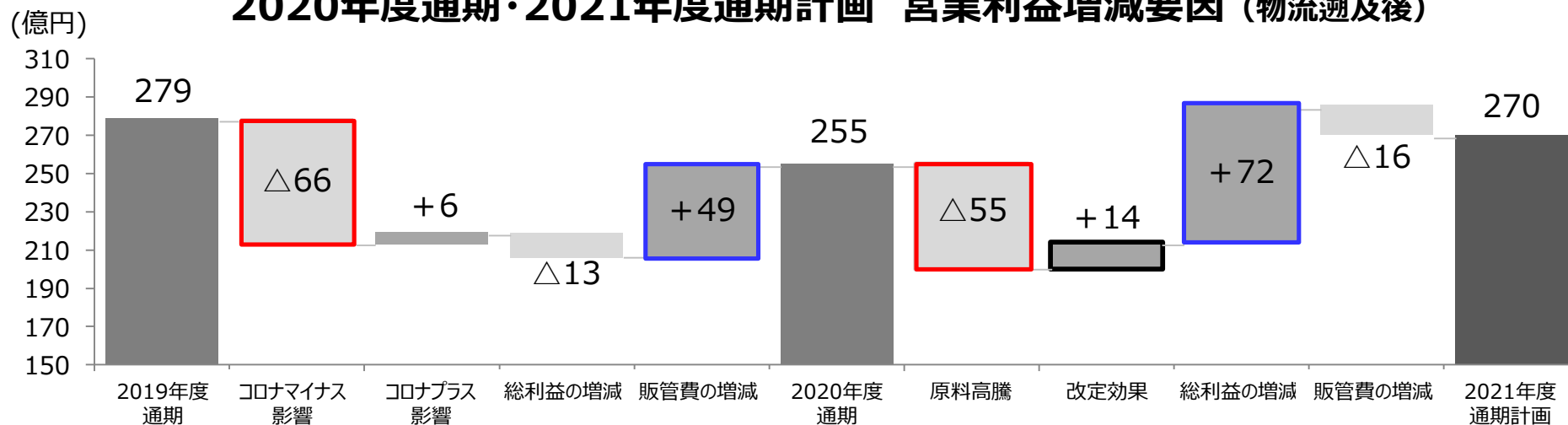
3. 参考資料

(億円)	2020年度 通期	2020年度 通期(遡及後)	2021年度 前回公表計画	2021年度 通期計画	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)	上期前年差 (遡及後)	下期前年差 (遡及後)
売上高	5,311	3,907	4,000	4,100	+193	+4.9%	+57	+137
営業利益	283	255	264	270	+15	+6.0%	+44	△29
経常利益	290	268	278	286	+18	+6.7%	+46	△29
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	114	114	150	154	+40	+35.3%	+40	+5
ROE	4.8%	4.8%	6.3%	6.4%	+1.6%	-	-	-
営業利益率	5.3%	6.5%	6.6%	6.6%	+0.1%	-	-	-
海外売上高伸長率	+3.8%	+3.8%	+16.6%	+17.1%	+13.3%	-	-	-

※ 2020年度通期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

※ 海外売上伸長率は2020年7月に株式譲渡した北米タマゴ事業の業績を除いて算出しています。

2020年度通期・2021年度通期計画 営業利益増減要因 (物流遡及後)



参考 2021年度上期 セグメント別売上高・事業利益

(億円)	売上高				事業利益			
	2020年度 上期(遡及後)	2021年度 上期	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)	2020年度 上期(遡及後)	2021年度 上期	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)
市販用	823	860	+37	+5%	69	97	+28	+41%
調味料	331	354	+23	+7%	48	69	+21	+44%
惣菜	279	295	+15	+6%	10	17	+8	+78%
カット野菜	133	132	△1	△1%	8	8	△0	△1%
その他	80	79	△0	△1%	3	3	△0	△12%
業務用	717	724	+7	+1%	27	27	△0	△1%
調味料	200	203	+3	+2%	14	15	+1	+5%
タマゴ	428	433	+6	+1%	12	15	+3	+26%
その他	90	88	△2	△2%	1	△3	△4	—
海外	231	247	+16	+7%	19	37	+18	+92%
中国	82	107	+26	+31%	10	18	+8	+87%
東南アジア	62	65	+3	+5%	6	9	+3	+46%
北米	63	49	△15	△23%	3	4	+1	+40%
その他	24	27	+2	+9%	0	6	+5	+1,073%
フルーツソリューション	83	86	+3	+3%	2	4	+2	+64%
ファインケミカル	40	44	+4	+10%	4	1	△3	△78%
共通	37	27	△10	△27%	7	6	△1	△12%
全社費用	—	—	—	—	△28	△27	+1	—
合計	1,932	1,989	+57	+3%	101	145	+44	+44%

※ 2020年度上期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

※ 海外の前年差には、為替影響(売上高△1億円、営業利益+0億円)が含まれています。

(億円)	売上高				事業利益			
	2020年度 通期(遡及後)	2021年度 通期計画	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)	2020年度 通期(遡及後)	2021年度 通期計画	前年差 (遡及後)	増減率 (遡及後)
市販用	1,680	1,722	+42	+2%	158	172	+14	+9%
調味料	671	687	+16	+2%	113	122	+9	+8%
惣菜	572	610	+38	+7%	21	31	+10	+47%
カット野菜	277	272	△5	△2%	17	16	△1	△6%
その他	160	153	△7	△5%	7	3	△4	△58%
業務用	1,450	1,547	+97	+7%	78	63	△15	△19%
調味料	410	420	+10	+2%	37	31	△6	△17%
タマゴ	851	939	+88	+10%	36	34	△2	△6%
その他	189	188	△1	+0%	4	△2	△6	—
海外	472	520	+48	+10%	49	64	+15	+29%
中国	188	248	+60	+32%	26	32	+6	+24%
東南アジア	118	128	+10	+8%	13	15	+2	+17%
北米	120	98	△22	△18%	8	10	+2	+31%
その他	46	46	+0	+1%	3	7	+4	+114%
フルーツソリューション	165	170	+5	+3%	6	8	+2	+43%
ファインケミカル	79	84	+5	+6%	12	9	△3	△22%
共通	60	57	△3	△6%	13	12	△1	△10%
全社費用	—	—	—	—	△61	△58	+3	—
合計	3,907	4,100	+193	+5%	255	270	+15	+6%

※ 2020年度通期(遡及後)は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。

参考 2021年度 セグメント別売上高・事業利益の状況

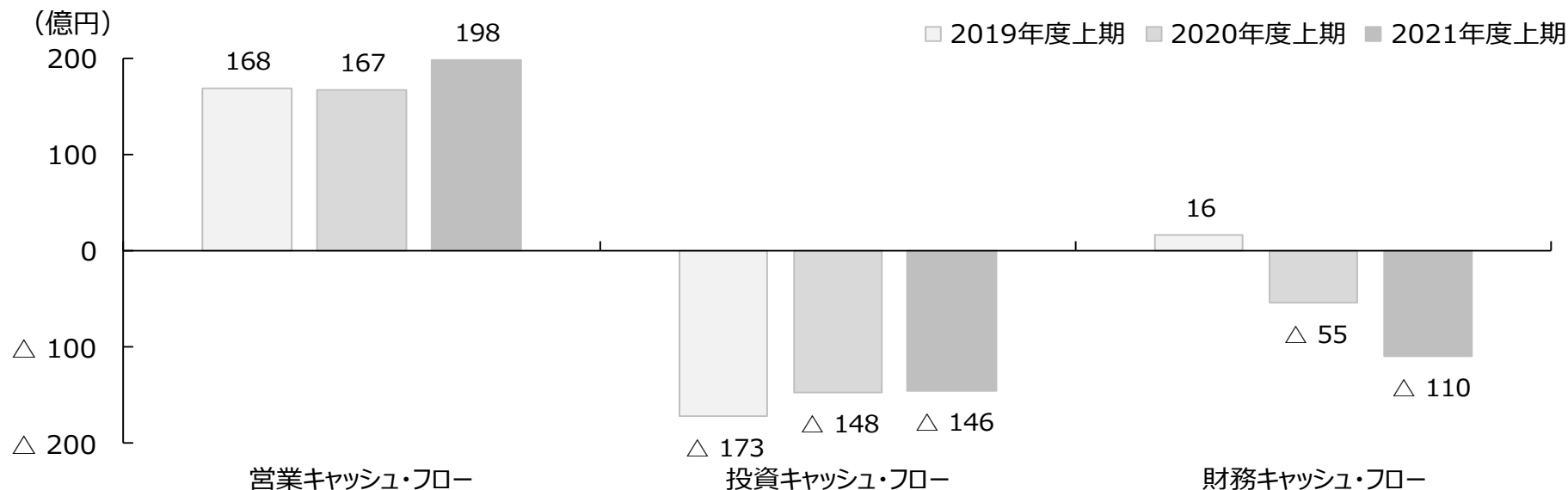
上期	(億円)	2021年 上期	前年差	
市販用	売上高	860	+37	・ 内食需要の高まりを受け、主力商品を中心に売上高が伸長し増収
	事業利益	97	+28	・ 売上増加や売上総利益率の改善などに努め増益
業務用	売上高	724	+7	・ 鶏卵相場上昇の影響により増収
	事業利益	27	△0	・ 新型コロナウイルス感染症拡大による需要減少に伴う操業度の低下により減益
海外	売上高	247	+16	・ 新型コロナウイルス感染症からの回復により増収
	事業利益	37	+18	・ 売上や輸出の増加により増益
フルーツソリューション	売上高	86	+3	・ 家庭用ジャム・スプレッドが堅調に推移したことなどにより増収
	事業利益	4	+2	・ 売上増および売上総利益率向上により増益
ファインケミカル	売上高	44	+4	・ 通信販売においてヒアルロン酸のサプリメントやスキンケア商品が好調に推移し増収
	事業利益	1	△3	・ 広告宣伝費の増加および原料販売の不振による生産操業度低下により減益

通期計画	(億円)	2021年度 通期計画	前年差	
市販用	売上高	1,722	+42	・ 主力商品の伸長や高単価商品の拡売などにより増収
	事業利益	172	+14	・ 主原料高騰影響を受けるが、売上総利益率の改善などにより増益
業務用	売上高	1,547	+97	・ 鶏卵相場上昇による売上増により増収
	事業利益	63	△15	・ 主原料高騰影響により減益
海外	売上高	520	+48	・ 新型コロナウイルス感染症からの回復により増収
	事業利益	64	+15	・ 売上総利益の増加により増益
フルーツソリューション	売上高	170	+5	・ 付加価値品の取り組みにより増収
	事業利益	8	+2	・ 売上増および売上総利益率向上により増益
ファインケミカル	売上高	84	+5	・ 通信販売での広告効率の高い商品の育成により増収
	事業利益	9	△3	・ 広告宣伝費の増加および原料販売の不振による生産操業度低下により減益

上期 (億円)	市販用	業務用	海外	フルーツソリューション	ファインケミカル	合計
売上増減に伴う売上総利益の増加	+11	△3	+14	+1	+3	+27
売上総利益率の改善	+20	△6	+3	△0	△0	+16
販売促進費・広告宣伝費	+0	+1	+2	+0	△4	△1
物流費	△3	+2	△1	△0	△0	△2
その他の販売費・一般管理費	△1	+5	△0	+0	△1	+4
前年差	+28	△0	+18	+2	△3	+44

通期計画 (億円)	市販用	業務用	海外	フルーツソリューション	ファインケミカル	合計
売上増減に伴う売上総利益の増加	+12	+3	+27	+1	+5	+48
売上総利益率の改善	+6	△18	△3	+1	△1	△14
販売促進費・広告宣伝費	△2	△1	+2	△0	△3	△4
物流費	+1	+2	△4	△0	△1	△2
その他の販売費・一般管理費	△4	△2	△7	+0	△2	△15
前年差	+14	△15	+15	+2	△3	+13

(億円)	上期		通期計画	
売上増減に伴う 売上総利益の増加	+27		+48	
売上高影響	+27	海外での売上伸長 +14 市販用の販売増加 +11	+48	海外での売上伸長 +27 市販用の販売増加 +12 業務用の販売回復 +3
売上総利益率の改善	+16		△14	
付加価値の向上	+6	海外および付加価値品の伸長 +4	+9	海外および付加価値品の伸長 +7
製造コスト影響	+12	市販用の生産性向上 +11	+17	市販用の生産性向上 +7 タマゴ操業度の回復 +5
主原料コスト影響	△2	調味料の主原料 △2	△32	調味料の主原料 △32
その他	+0	国内鶏卵相場影響 △2 野菜相場影響 +1	△8	国内鶏卵相場影響 △23 価格改定効果 +14
販売促進費・広告宣伝費	△1		△4	
販売促進費・ 広告宣伝費	△1	販売促進費の抑制 +5 広告費用の増加 △6	△4	市販用の販促活動の再開 +0 広告費用の増加 △4
物流費	△2		△2	
物流費	△2	売上増加による物流費の増加 △2	△2	海外における物流費の増加 △4
その他の販売費・ 一般管理費	+4		△15	
その他販売費・ 一般管理費	+4	旅費交通費・交際費の抑制など +4	△15	経済活動再開に伴う費用の増加 △15



〈2020年度上期との比較〉

営業キャッシュ・フロー

- ・ 仕入債務の増減額 + 68
- ・ 税金等調整前
四半期純利益 + 51
- ・ 売上債権の増減額 △ 96

投資キャッシュ・フロー

- ・ 有形固定資産の取得
による支出の減少 + 87
- ・ 連結の範囲の変更に伴う
子会社株式の売却に
よる支出 △ 88

財務キャッシュ・フロー

- ・ 自己株式の取得による
支出の増加 △ 70

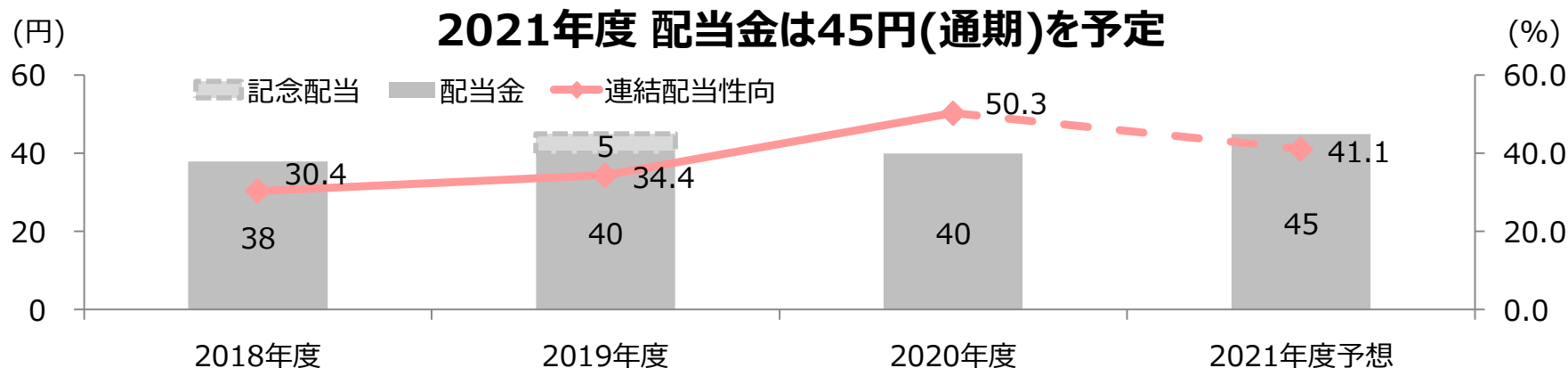
設備投資の状況

(億円)

2020年度 上期(遡及後)	2021年度 上期	2021年度 通期計画
113	63	148

(億円)	2020年度 通期(遡及後)	2021年度 通期計画	前年差 (遡及後)	主な要因
営業利益	255	270	+15	
営業外損益	13	16	+3	・ 持分法による投資利益の増加 +3
経常利益	268	286	+18	
特別損益	△61	△24	+37	・ 関係会社株式売却損の減少 +19 ・ 関係会社株式売却益の増加 +3 ・ 固定資産除却損の減少 +9
税引前利益	208	262	+54	
法人税等 非支配株主に帰属 する四半期純利益	94	108	+14	・ 法人税等の増加 +12
親会社株主に帰属する 四半期純利益	114	154	+40	

※ 2020年度通期（遡及後）は、物流事業を除いた遡及適用後の数値を記載しています。



(億円)		2019年度 上期	2020年度 上期	2021年度 上期
マヨネーズ	国内	231	224	234
	海外	103	106	127
ドレッシング	国内	205	188	196
	海外	46	48	66
合 計	国内	436	412	430
	海外	149	154	193
	計	585	567	623

注意事項

この説明会資料に掲載されている、キューピー株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。

これらは、現在入手可能な情報から得られたキューピー株式会社の経営者の判断に基づいており、過度の信用を置かれませぬようお願いいたします。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害などに関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

また、この説明会資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

《お問い合わせ先》

キューピー株式会社

経営企画部IRチーム 鴨井、竹下、日高

TEL : 03-3486-3331